

## 公開質問書（19.01.30）回答

前略

太田川ダム建設工事について次の3点を公開質問します。

『質問』

1. 山本寛氏に送られてきた本年1月17日付け太田川工第28号、公文書非開示決定通知書によると、「法面に設置した測量点の変位が顕著に観察された事により、掘削中断を早急に判断した（以下略）」。

「アンカー工による法面補強を施工した結果、掘削工事が中断となった変位が沈静化した事が確認されたことから、基礎掘削工事を再開したため（以下略）」とあります。

ところが昨年12月4日に開示された堤体下流左岸変位一覧表を添付のようにグラフ化してみると、工事を再開した06年3月以降多くの測定点でX軸方向の変位が加速しており、Y、Z軸方向の変位も加速はないものの継続している測定点がかなり見られます。

（a）「沈静化した」という判断は事実とちがうではありませんか。

（b）X軸方向の変位の加速はどのような原因から起きたと判断していますか。

『回答』

（a）2005年1月～2005年10月にかけてのグラフは右下に凸な形になっており、この間に変状の速度が速くなっていると判断できます。しかし、2005年10月以降のグラフはX、Y、Zいずれも左上に凸なグラフになっておりますので、この間に変状の速度が小さくなっています。このようなことから、変状は沈静化していると判断しております。

なお、X方向のグラフの中には上記の左上に凸な形状が不明瞭な点もありますが、これは左岸下流側の自然斜面の箇所における下流向きへの変位です。

（b）上記のように、沈静化していると判断しております。それは、アンカー工を実施したことによるものと考えております。

『質問』

2. 昨年12月4日、国土研調査団の視察の際にも、県の担当者は依然として現在左岸で起きている変状は「リバウンドです」と説明していましたが、1月4日に開示された資料もあわせて吟味すると、実際に起こっているのは「岩盤クリープ」ではありませんか。建設技術研究所ではどう考えていますか。

『回答』

左岸下流法面に変状が生じたのは、掘削の進行による除荷の影響で、地盤内のバランスが変わったことによるものと考えております。

『質問』

3. (a) 40mのアンカーを打ち込んだ後も変位が加速されたり継続したりしていますが、この工事は有効であったと考えていますか。その理由は？

(b) 上記のような現象が見られることは、測点の位置や孔内傾斜計の数値の変化として認められる地盤の変状がアンカーの届かない深い場所を含めておこっている事を示唆しているのではありませんか。

『回答』

3.(a)(b) 質問1の回答のとおり沈静化しておりますので、アンカーは有効であったと考えております。